



のむら たつじ

野村 達治 氏

第10回 1994年度 高柳記念賞

### 「わが国における衛星放送の普及発展への貢献」

野村達治氏は、長年にわたりわが国の放送技術の発展向上に広範、かつ多大な貢献をした。戦中戦後の荒廃した放送事業の再建を図り、ラジオからテレビへの技術革新にかかわり、とくに、テレビ宇宙中継、衛星放送分野でのパイオニア的研究開発を先導し、今日の衛星放送の実現に寄与した。

その衛星放送分野における業績の要約は下記の通りである。

#### 1. 宇宙中継時のテレビ映像・音声信号の伝送方式および伝送機器の研究開発の指導

とくに、東京オリンピック大会(1964年)の実況中継を静止衛星シンコム3号を介して宇宙中継する際に、テレビ信号伝送用として不十分な衛星中継器性能を補うため、新たなテレビ信号伝送方式として正極同期ノンリエアエンファシス方式、および送受信端末の研究開発を指導し、世界で初めて連日・長時間にわたる高画質のテレビ実況生中継を成功させ、わが国の放送技術水準の高さを世界に示した。

#### 2. テレビ標準方式変換装置の研究開発の指導

世界各国との宇宙中継に対処するため、電子式テレビ標準方式変換装置の研究開発を指導し、白黒テレビ、カラーテレビ用標準方式変換技術を確立した。

#### 3. 衛星放送時代への基礎技術の確立

衛星の持つ優れた機能を放送事業に活用するため、わが国として全く未経験な放送用衛星の研究開発を指導し、ならびに、衛星を介するテレビ信号伝送方式および送受信機器の研究開発を指導し、今日の衛星放送時代到来への基礎技術を確立した。とくに、家庭用衛星放送受信機の研究開発を指導し、世界に誇る衛星放送受信技術を確立した。また、1978年打ち上げの実験用放送衛星、1983年打ち上げの実用放送衛星の開発に貴重な助言を与えるなど放送衛星実用化に寄与した。

以上要約するに、同氏はNHKにおいて放送技術研究所テレビ部長、同研究所長(理事)更に専務理事・技師長などの数々の要職を通して卓越した技術者としての見識と、指導者としての情熱をもって上記に述べたように今日の衛星放送時代を築く未踏の基礎技術を研究開発し、更にもその実用化、並びに後進の指導育成に貢献されるなど業績は極めて大きい。